

事務事業チェックシート

評価年度	H24	H25	H26	対象外
	○			

事務事業No 374 事業名 難病患者地域支援対策推進事業

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計		一般会計	
	款		衛生費	
	項		保健衛生費	
	目		保健所費	
	大事業		保健所事業	
事項		難病患者地域支援対策推進事業		

事業種別	継続	主な事務事業	○
事業期間	永年	～	
関連個別計画			
担当課・担当課長 (Tel)	保健対策課	坂東貞次 (433-2261)	
関連課			

「3つの磨き」との関連性

「市民力を磨く」		「基盤力を磨く」		「観光力を磨く」		該当せず	○
コミュニティーの充実		メリハリある都市づくりの充実		史跡和歌山城の充実			
市民の健康環境の充実		道路・公共交通網の充実		海を生かした観光シフトの充実			
総合的な子育て環境の充実		総合防災体制の充実		美味しい和歌山市イメージの充実			
その他		その他		その他			

1 事業概要及び実施内容

事業目的 (「誰・何」をどういう状態にする) ための事業か	事業内容				
難病患者の在宅療養の適切な支援を行い、安定した生活の確保と生活の質の向上を目的とし、病気の専門的な知識を患者に知ってもらう。	①訪問相談事業 保健師・看護師が患者宅への訪問し、要支援難病患者やその家族が抱える日常生活上・療養上について、患者等のプライバシーに配慮しながら個別相談、指導、助言等を行なう。 ②医療相談事業 難病患者等の療養上の不安解消を図るため、難病に関する専門医、看護師、社会福祉士等により医療相談会を開催し、相談事業を実施する。				
実施内容	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	難病患者を対象に医療相談会、個別・訪問相談を実施した	難病患者を対象に医療相談会、個別・訪問相談を実施した	難病患者を対象に医療相談会、個別・訪問相談を実施した	難病患者を対象に医療相談会、個別・訪問相談を実施した	
	医療相談会のテーマ 「重症筋無力症の疾患の理解と治療について」 「後縦靭帯骨化症の疾患の理解と療養生活について」 「パーキンソン病の疾患の理解と治療について」	医療相談会のテーマ 「強皮症・皮膚筋炎・多発性筋炎の理解と治療について」 「下垂体機能障害について～小児から成人へ～」 「ロービジョンケア～網膜色素変性症～」	医療相談会のテーマ 「パーキンソン病のリハビリテーションについて」 「吸引の基礎知識について～家族以外のものがおこなう吸引について学ぶ～」 「多発性硬化症の疾患の理解と治療について」		

2 事業コスト

事業費 千円	平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		
	事業費	1,302	1,191	1,216	1,273	1,284	1,062	1,239			
	伸び率 (%)	-	-	-6.6%		5.6%		-3.5%		-100.0%	
	人件費	常勤職員	619	2,320	2,320	2,281	2,281	2,296	2,281		
		非常勤職員	797	911	911			808			
	小計	1,416	3,231	3,231	2,281	2,281	3,104	2,281			
	国庫支出金	651	595	608	607	642	509	619			
	県支出金										
	市債										
	その他										
一般財源 (税等)	651	595	608	666	642		665				
所要人数	常勤職員	0.08	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3			
	非常勤職員	0.39	0.44	0.44			0.32				

3 目標及び実績

活動指標	指標名及び達成状況				平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	医療相談会の開催回数				年度目標値	3	3	3	
					実績値	3	3	3	
	単位		全体目標値	全体目標達成度	年度別達成度	100.0%	100.0%	100.0%	
					年度目標値				
					実績値				
成果指標	医療相談会参加満足度				年度目標値	1	1	1	
					実績値	0.99	0.93	1	
	単位	%	全体目標値	3	全体目標達成度	100.0%	93.0%	100.0%	
	医療相談会参加者数				年度目標値	100	100	100	
					実績値	107	122	159	
	単位	人	全体目標値	100	全体目標達成度	114.5%	122.0%	159.0%	

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 事業の方向性

方向性	A 計画どおり事業を進めることが妥当	B 1 事業の充実に向けた見直し	担当課評価 (所属長記載) A
	B 見直しのうえで継続	B 2 コスト削減・成果上昇	
	C 終了	B 3 類似事業との統合	
	D 休止	B 4 外部委託導入・拡大	
	E 廃止	B 5 受益者負担の適正化	
		B 6 終期設定	
		B 7 その他効率化	

担当課評価の根拠	難病患者の在宅療養は適正な知識が必要であり、また生活の質の向上を勧めるためにも、この事業の実施が好ましい。現状のまま継続。
「見直し」 「改善」案 ※上記、担当課評価が「B」評価の場合のみ	